

事例3 小学校のOJT実践事例

TTとして一緒に授業に関わることで、授業力向上を目指す

【TTで関わる教員として】

小学校では担任一人で授業の構想を練ることが多く、教材や展開などで悩んでも相談する機会がとりにくい。そこで本校では、学力向上推進リーダーによる授業支援を活用し、TTとして関わる教員が若手教員と一緒に授業づくりを行った。

関わる教科は国語と算数である。若手教員の授業が中心だが、計画的に全ての担任の授業支援に関わることで、教員全体の授業力向上も目指した。

〈取組の内容〉

○全学級への授業支援

どの学級の授業支援をいつ行うかについて毎月の時間割で確認し、全学級の授業に関われるように工夫した。当日の朝は、短時間で授業についての打合せを行い、授業者の考えや本時の目標などの確認を行った。

主に、T2として授業支援を行うことが多いが、若手教員の学級では、T1として授業をすることもあった。そうすることで、若手教員は授業の展開や問い方を参考にできるだけでなく、子どもの反応などの実態を客観的に見ることができると考えた。

○放課後の「振り返りタイム」

T2で授業支援を行ったときには、その日の放課後に授業者との振り返りの時間を設けた。場所は職員室で、時間は負担がないように10分程度で行った。放課後までに、板書の写真やコメントを入れた「振り返りカード」を作成し、効率よく話し合うための工夫をした。

「今日の授業はどうだった?」「どのくらいの子どもが目標を達成できたかな?」などと授業者の考えや思いを聞きながら、自分の経験と照らし合わせてアドバイスをした。また、進度に合わせて、関連する内容の「パワーアップシート」や「とちぎっ子学習状況調査の過去問題」を紹介し、振り返り問題や評価問題としての活用を促した。

これが成功の鍵!

①一緒に行う

できるだけ授業者の思いを聞きながら、授業の振り返りを一緒に行いました。また、今後どのような授業をしていくとよいか、一緒に考えました。

④伝える工夫をする

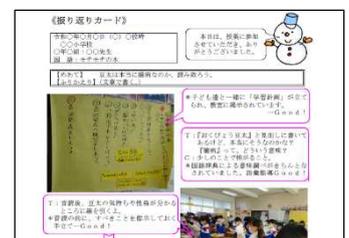
「振り返りカード」は、授業の様子を写真で見せたり、子どもの発言を文字に表したりすることで、視覚的に伝える工夫をしました。

【若手教員の声】

授業づくりでは迷うことも多いので、相談できる先輩教員はありがたい存在です。授業づくりを一緒にしながら相談を重ねるごとに、うまくいかないことも気軽に相談できるようになりました。授業だけでなく、子どもたちへの関わり方など勉強になる部分がたくさんあります。

【同学年を担当する教員の声】

隣の席で「振り返りタイム」をやっていると、聞こえてくる内容について耳を傾けて一緒に聞いてしまいます。自分の学級にも活用できそうな場合は、声を掛けてプリントをいただくこともしばしばです。授業づくりを通して、教員同士がつながり合える関係が嬉しいです。



振り返りタイム(上)と振り返りカード(下)

〈取組の成果〉

- ・全ての学級の授業にTTで関わることで、多くの教員とつながることができた。児童の様子などの情報交換も気軽に行えるようになった。
- ・若手教員だけでなく、全教員の授業や教材研究に対する意識が変わった。
- ・「振り返りタイム」により、職員室で授業の話を進んでするようになった。周りの教員も、自分に関わりのあることを一緒に聞いたり、質問したりしやすい雰囲気になった。